

館 潔彦氏の経歴

館 潔彦氏関係経歴

1849年（嘉永2年）4月15日

桑名藩士 館淳夫の長男として出生

1868年（明治元年）

上京

1872年（明治5年）10月3日

こう ぶしょう

工部省入省 測量四等少手



1874年（明治7年）1月24日

工部省測量司の内務省移管に伴い内務省へ

測量二等少手

1877年（明治10年）1月23日

量地課 地理局へ配置換

1880年（明治13年）6月

全国三角測量部署を定め始める

1882年（明治15年）5月24日

全国測量巡回

1883年（明治16年）7月

み かた はら

三方原基線を実施

1884年（明治17年）7月7日

内務四等属の辞令

1884年（明治17年）7月15日

内務省所管測量部門を陸軍に移管に伴い参謀本

部へ 陸軍11等出仕

1885年（明治18年）9月～

とおとうみ

遠江地方の二等三角点選点

1886年（明治19年）

遠江地方の二等三角点観測

1887年（明治20年）

陸軍六等技師の辞令

1889年（明治22年）

そうにんかん

奏任官六等の辞令

1891年（明治24年）7月～

一等三角点選点開始

1905年（明治38年）11月

退官

1927年（昭和2年）6月4日

出身地桑名の自宅で死亡

主要な社会的事件

1853年（嘉永6年）

ペリー浦賀に来航

1868年（明治元年）

明治維新

1872年（明治5年）

新橋・横浜間の鉄道開通

1873年（明治6年）

ち そ

地租改正

1877年（明治10年）

西南戦争

1885年（明治18年）

だじょうかんせい

太政官制廃止、内閣制度発足

1889年（明治22年）

大日本帝国憲法発布

工部省時代

内務省時代

陸軍省時代

けいふ 一等三角点の系譜(全国)

館潔彦氏の一等三角点の選点について

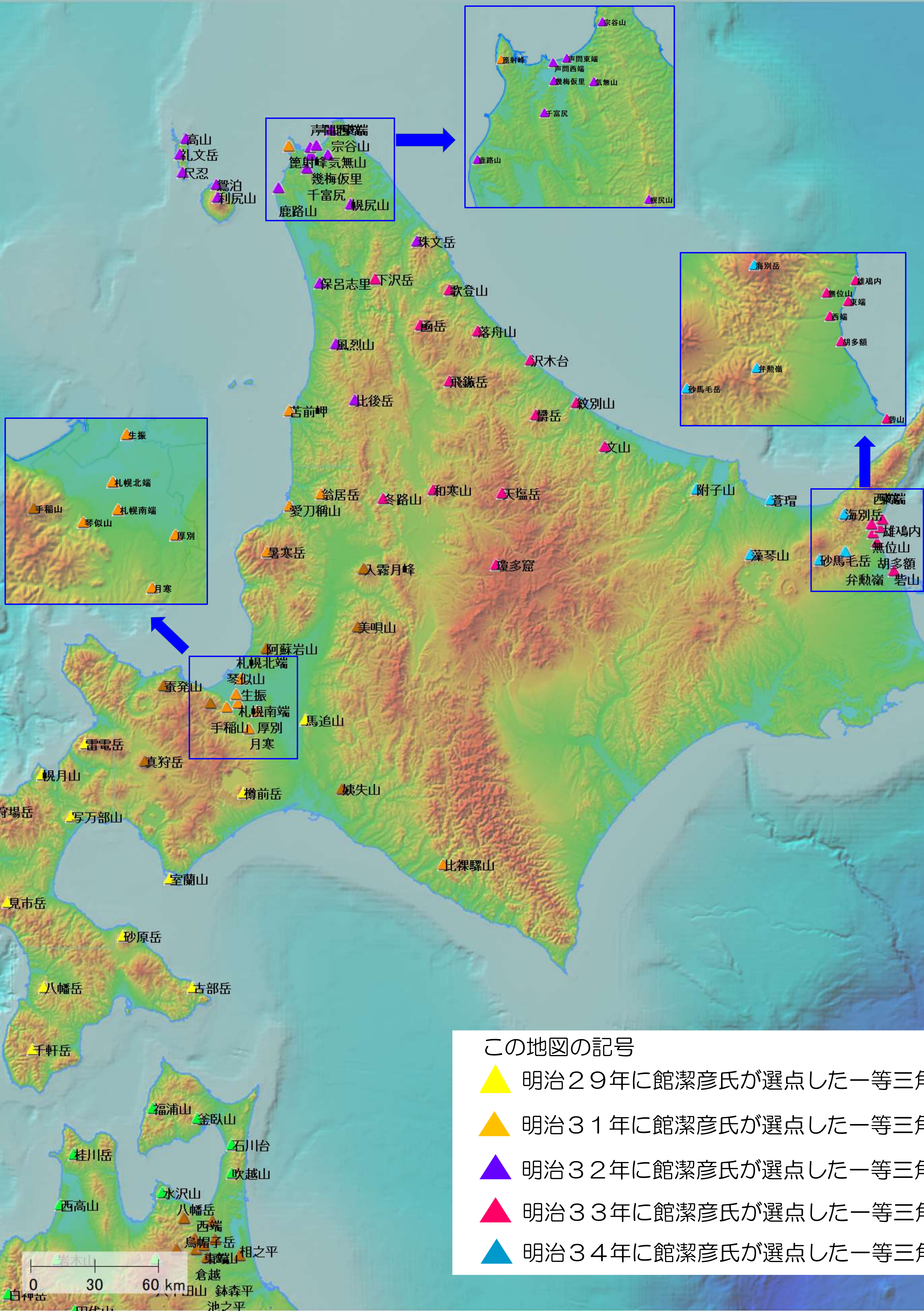
館潔彦氏は、明治24年から明治34年までの11年間に263点の一等三角点の選点を行いました。
この図は、館潔彦氏の選点した一等三角点を▲で表しています。
なお、当図ではその他の一等三角点△の一部は入っておりません。ご了承ください。
(日本全国の一等三角点の数は令和2年現在で、974点です。)

この地図の記号

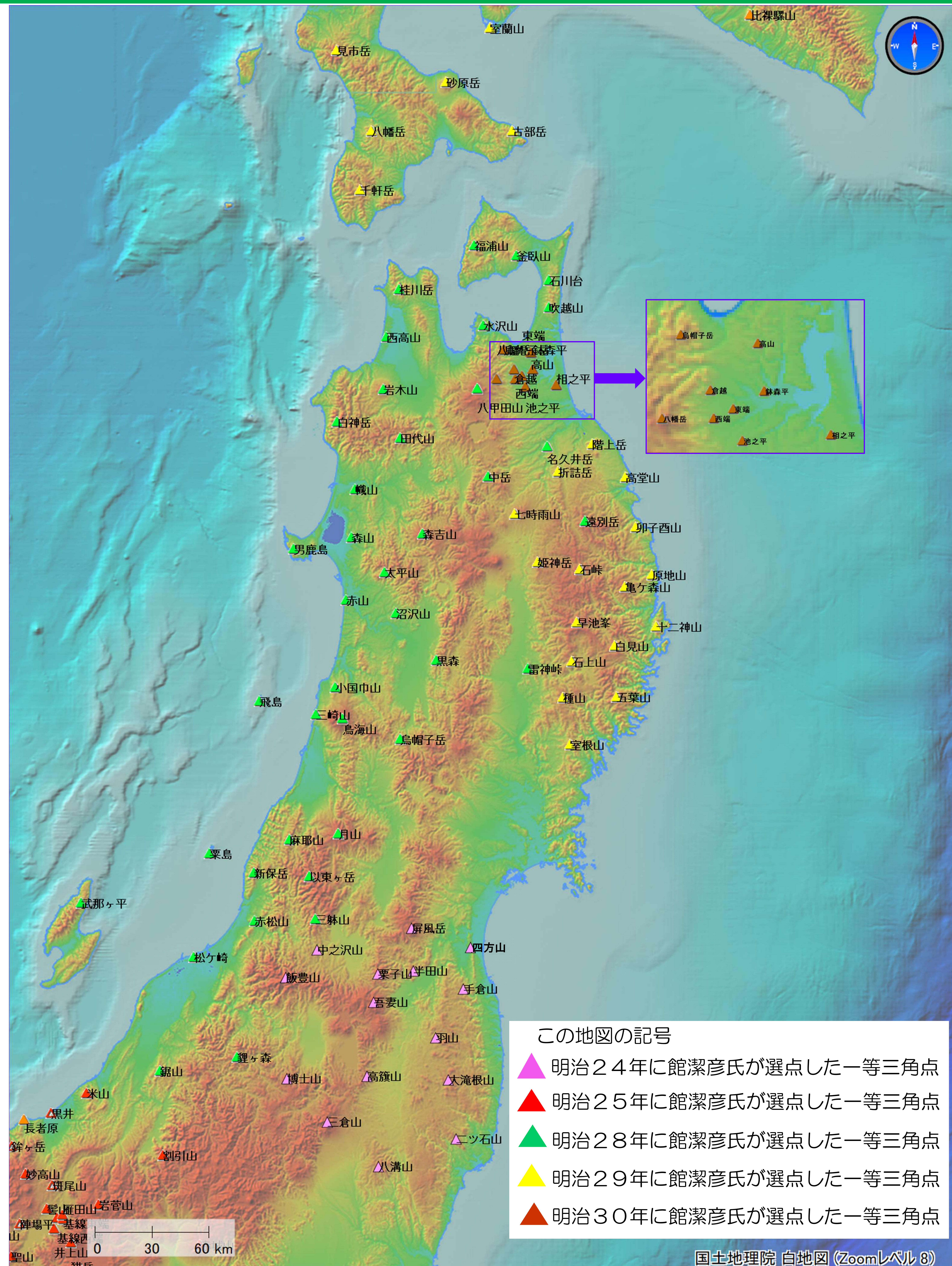
- ▲ 館潔彦氏が選点した一等三角点
- △ その他の一等三角点

0 100 200 km

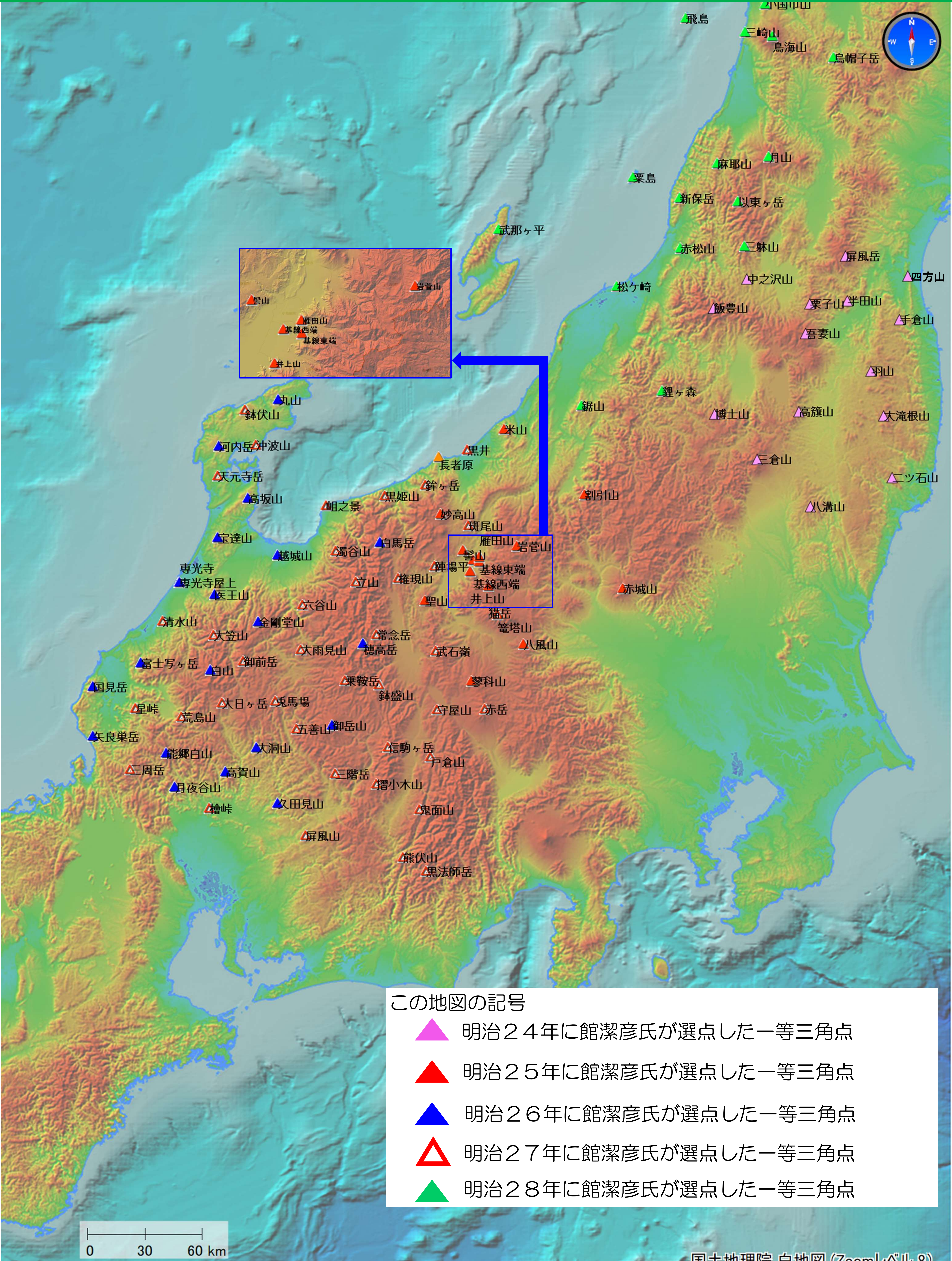
一等三角点の系譜(1)



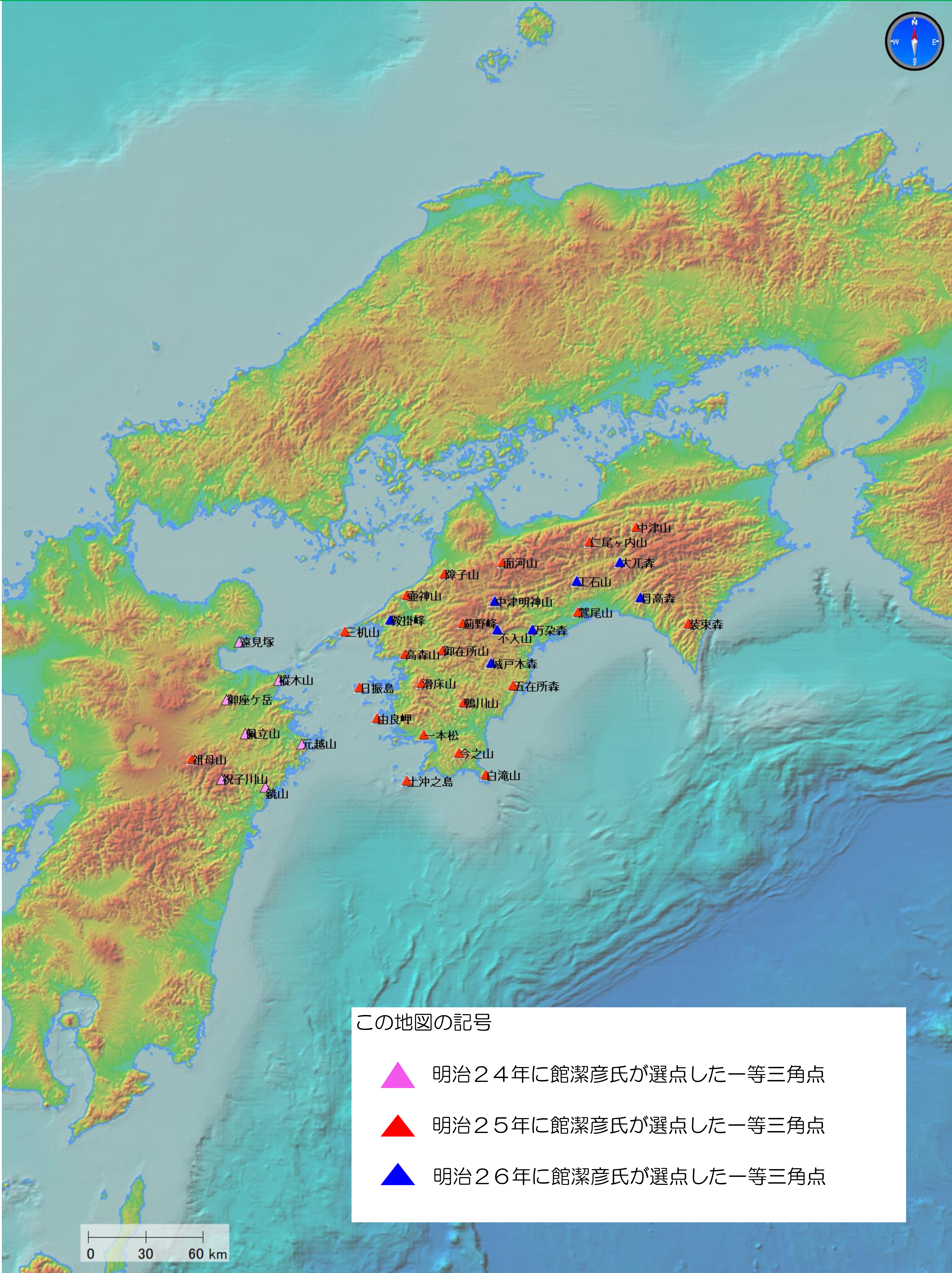
一等三角点の系譜(2)



一等三角点の系譜(3)



一等三角点の系譜(4)

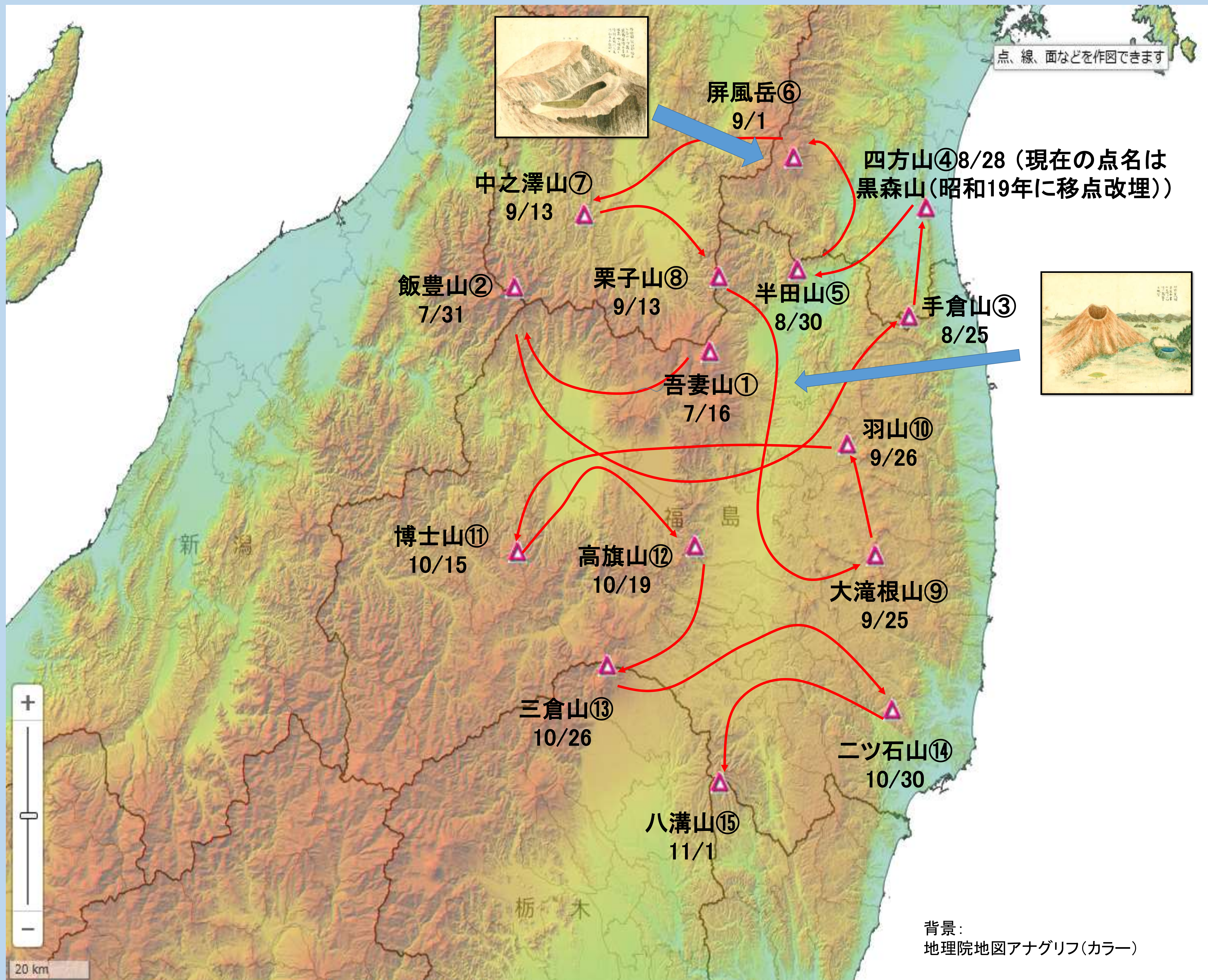


この地図の記号

- ▲ 明治24年に館潔彦氏が選点した一等三角点
- ▲ 明治25年に館潔彦氏が選点した一等三角点
- ▲ 明治26年に館潔彦氏が選点した一等三角点

常羽三角網の足取り

明治24年7月～11月にかけての選点の足取り
常羽三角網



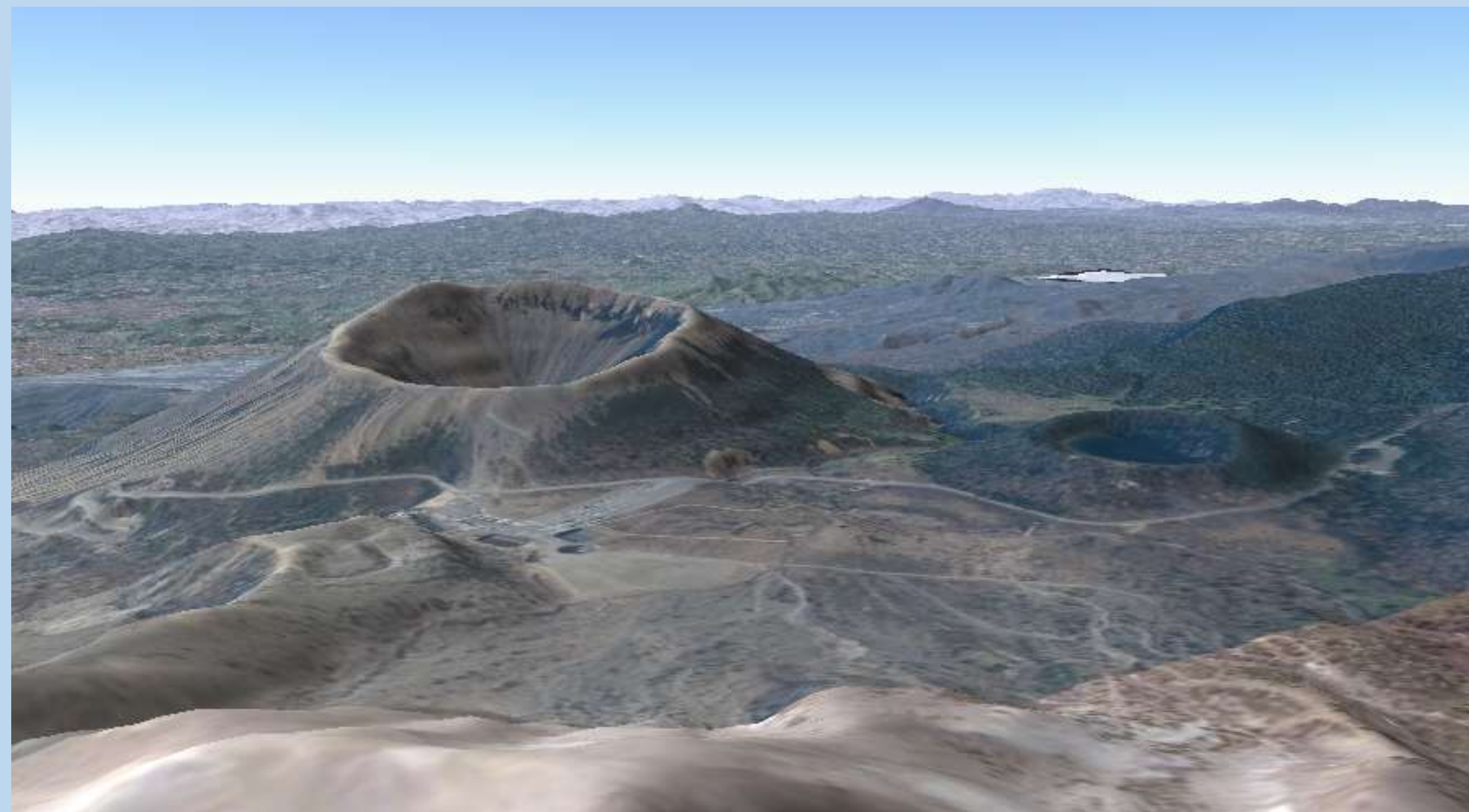
点の記を見ると福島町から吾妻山を目指しており、明治20年（1887年）には既に上野～福島間の鉄道は開通しているため、福島駅まで鉄道を利用したものと思われます。（現在の東北本線）選点の足取りは点の記の記載より矢印のルートを通って行われたと考えられます。途中、吾妻山選点時には吾妻山から見た吾妻小富士のスケッチを描いています。また、屏風岳選点時に熊野岳の頂上付近のスケッチを描いています。なお、9月13日には中之澤山と栗子山二点を選点していることとなっているため、かなりのハードスケジュールだったことがうかがえます。

観測の際は、選点場所である一切経山（吾妻山）が噴火し、噴煙のため作業に支障を来したと記されています。気象庁の資料によるとこの噴火で火口付近調査中の2名が亡くなったとあります。

吾妻小富士



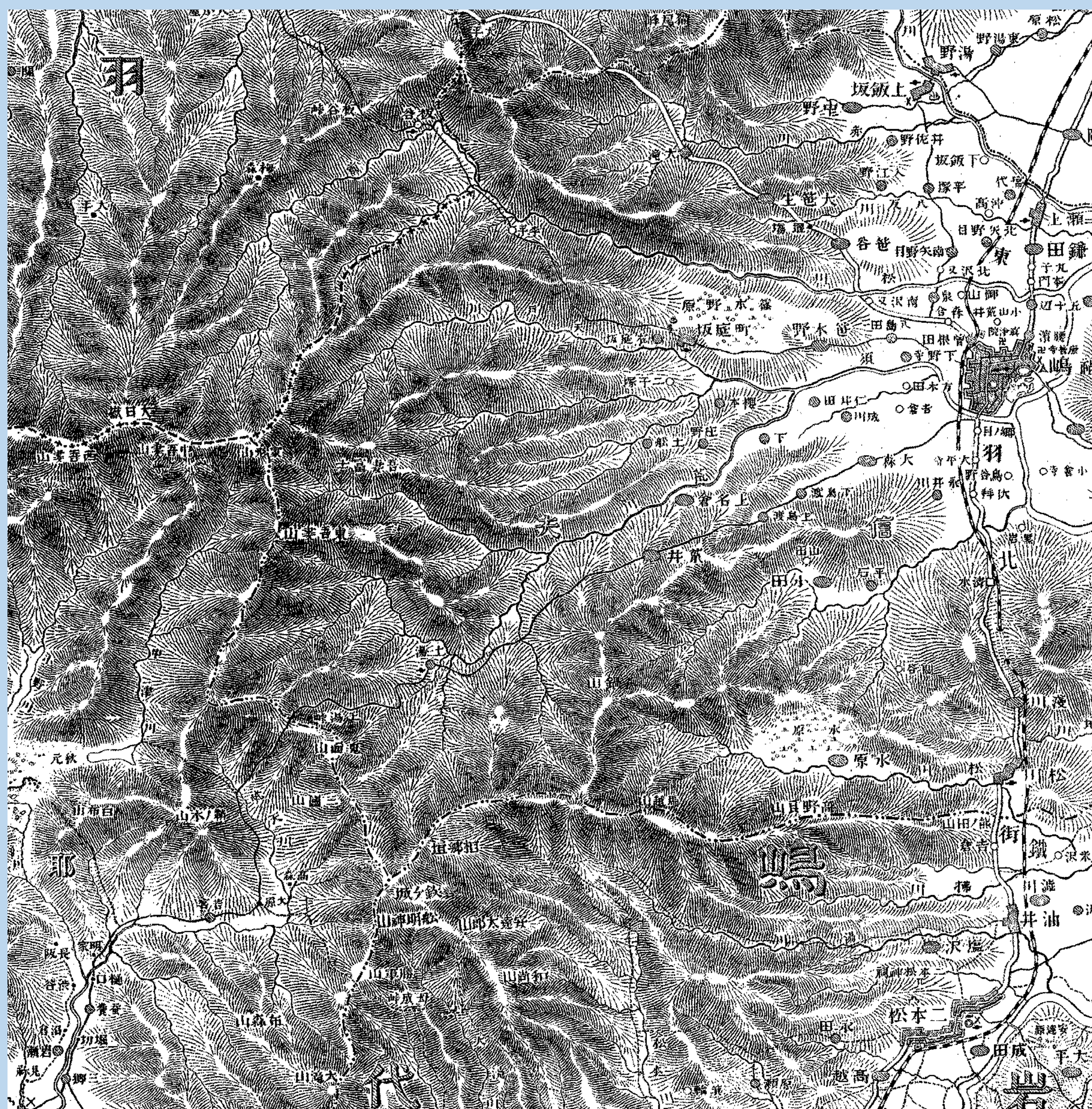
一切経山（吾妻山）より吾妻小富士眺望
明治24（1891）年7月16日、一切経山（吾妻山）の選点を行っているので、その際に描いたものと推定されます。



カシミール3Dで地理院地図の画像を用いて再現した現在の吾妻小富士



現在の地理院地図
丸印の地点から矢印の方向を見て描いたと思われます。



20万分1輯製図福島

明治21（1888）年の20万分1輯製図（右）では、選点場所の一切経山の地図表記はなく、吾妻小富士の位置関係等も現在の地図とはやや異なります。スケッチの中央に福島、忍山（信夫山）と記載されていますが二本松の方です。ただ、下山途中で測量前の輯製図を用いて方向を確認したためと思われます。点の記によると一切経山選点后、明治26年に一切経山が噴火したと記載されています。噴煙の中での観測で作業が難航したとあります。

熊野岳

熊野岳

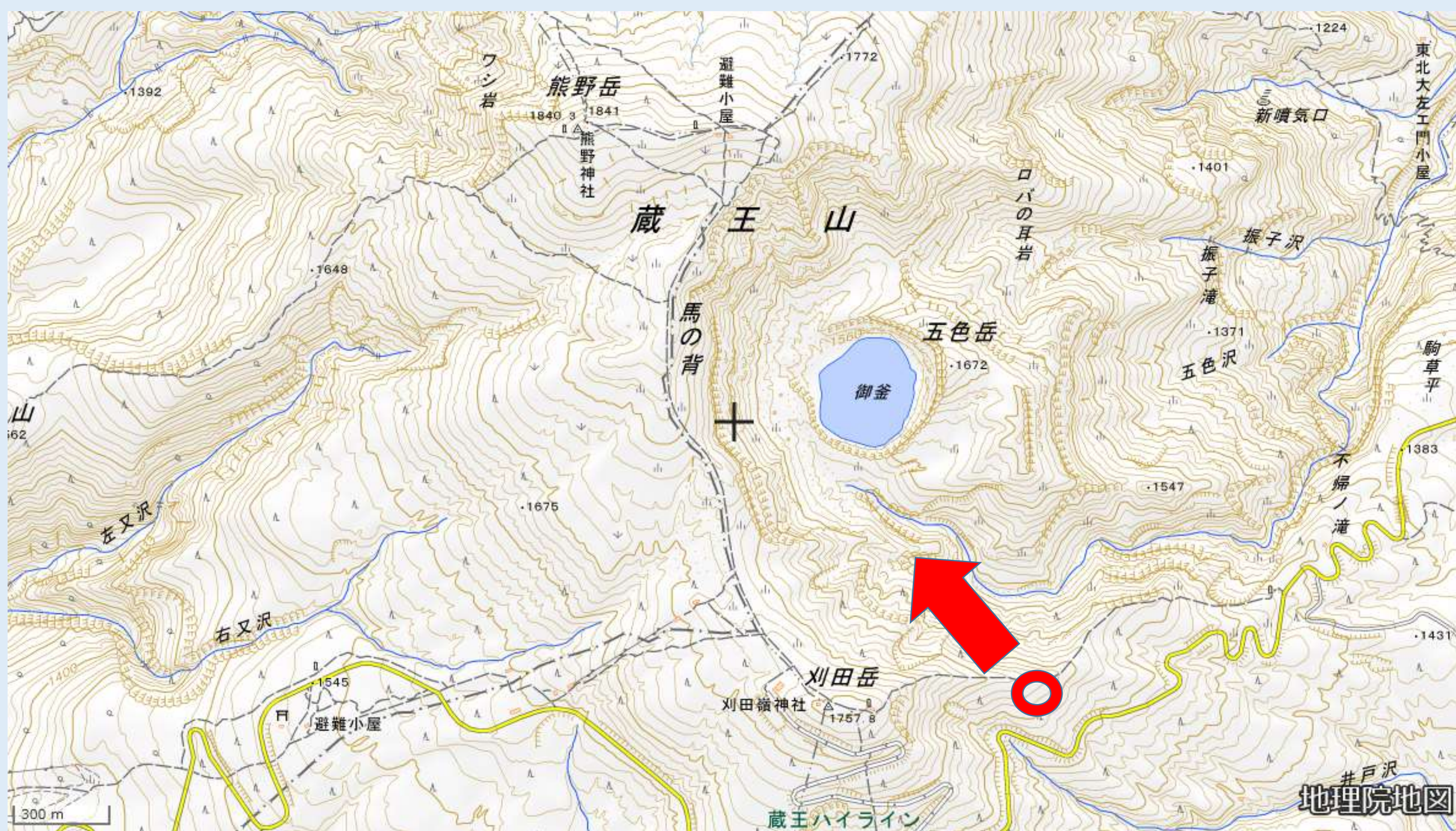


熊野岳

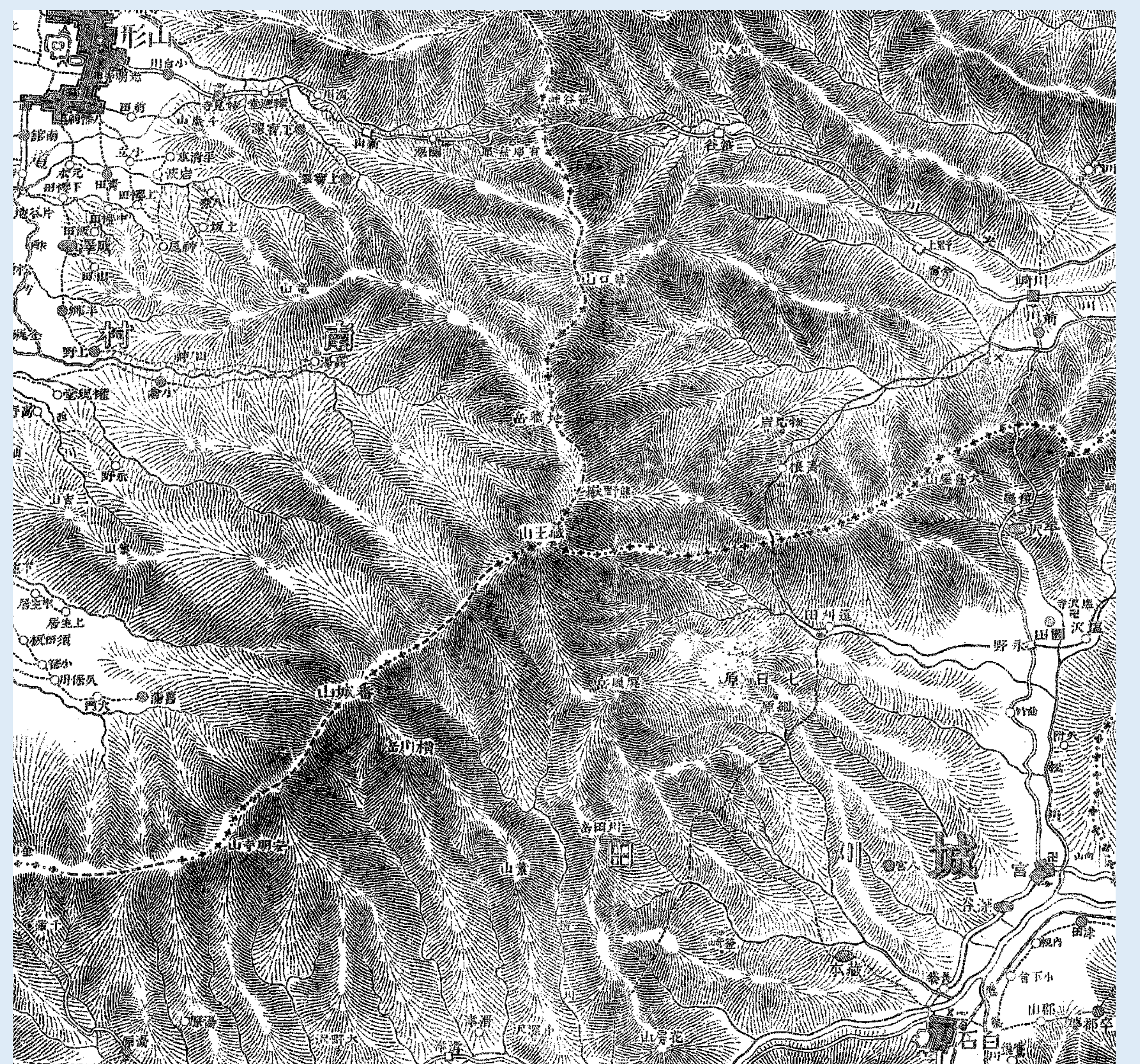


明治24年9月1日、蔵王山南の屏風岳の選点を行っています。
この絵は、御釜の水面より高く、ほぼ南から北に位置する熊野岳を描いていることから、現在の刈田岳東尾根がスケッチポイントと考えられます。熊野岳には、後に二等三角点が設置されることになりましたが、それは明治30年のことでした。

地理院地図 3Dより再現した熊野岳



現在の地理院地図
丸印の地点から矢印の方向を見て描いたと思われます。



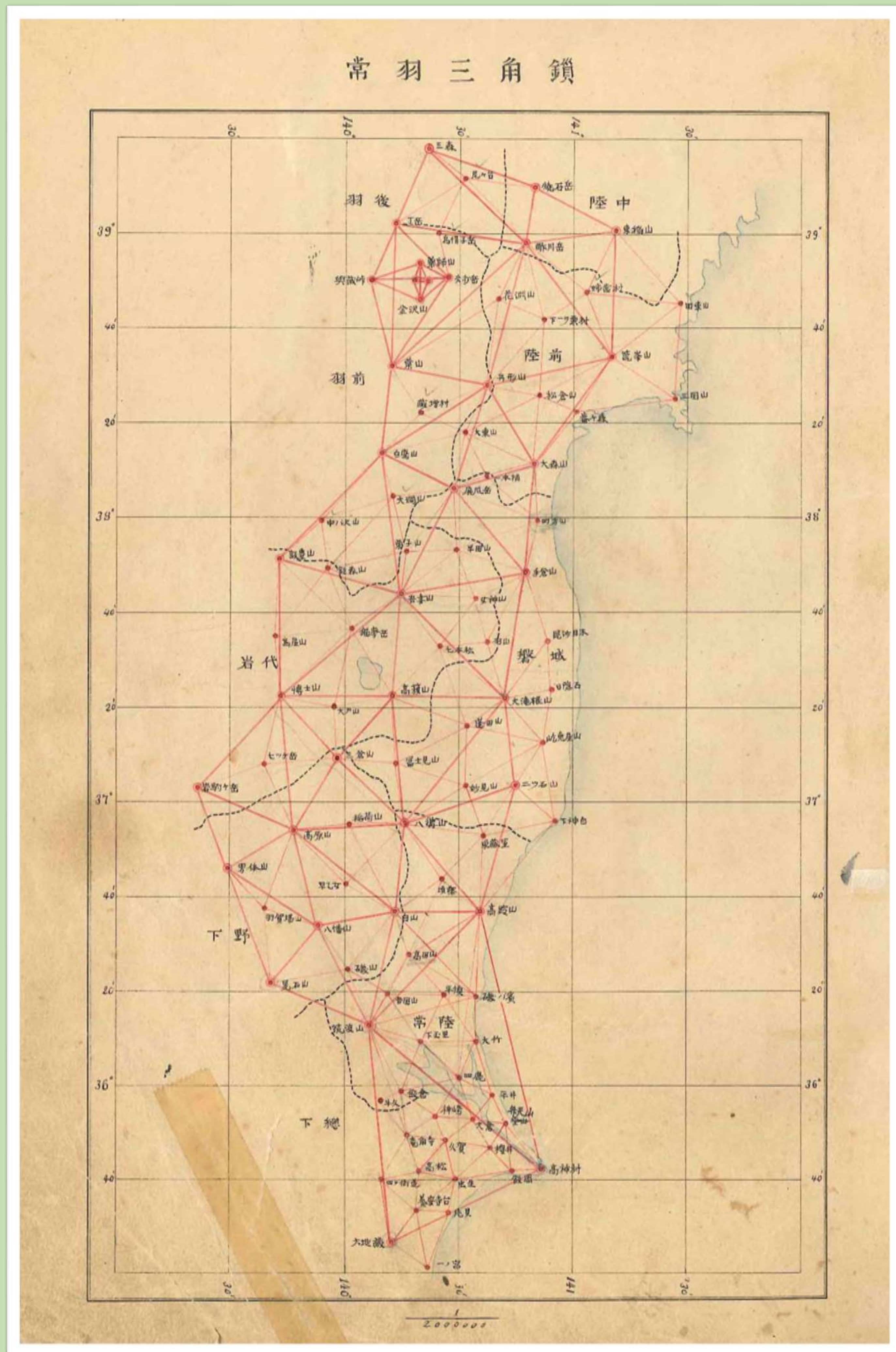
20万分1 輯製図 仙台

明治21（1888）年の輯製図「仙台」（右）では、選点場所の屏風岳より蔵王山と注記された場所がどこよりも高そうに表現されています。館師はこのあたり、北は地藏岳から南は屏風岳などまでの選点踏査を行ったに違いない、と考えられます。ちなみに、当時の地図には五色岳の御釜は記されていませんでした。

三角鎖(網)図・選点図

三角測量実施の順序は、まず、基線を測定し、これを拡張していった一等三角本点の一边を求めます。これに基づいて一等三角鎖（三角鎖：後に、明治39年に三角網と呼称が統一される）を設置していき、その三角網内に補点以下各点を順次配置し、観測を行っていきます。

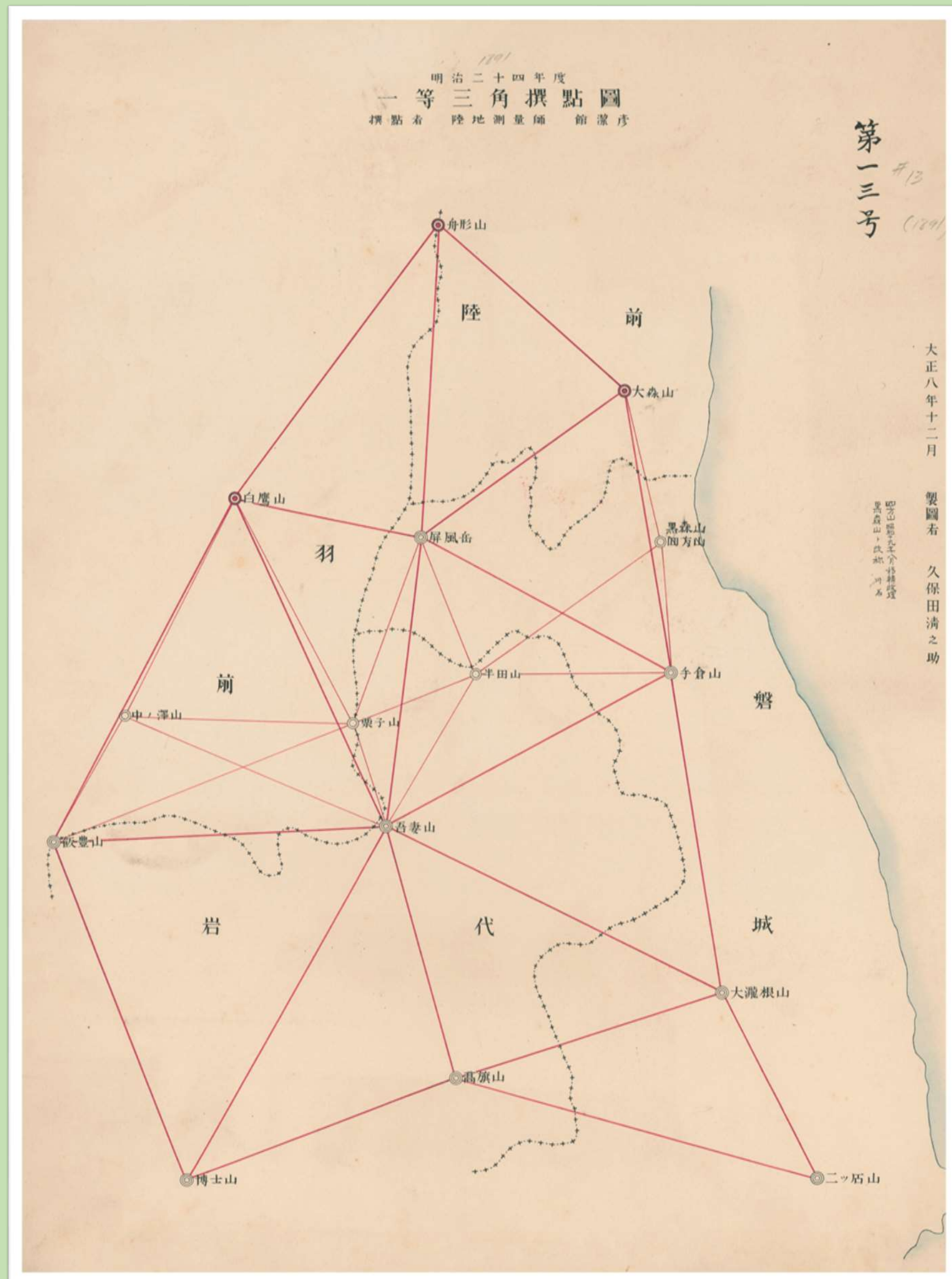
三角鎖(網)図



三角鎖（三角網）の図には、以下の2つの観測網が表現され、1つの一等三角網となっています。

- ・ 常羽三角網本点観測は、明治26～27年
 - ・ // 補点観測は、明治26～31年
- 観測後の計算過程は、本点網の計算後補点網を行うことになっています。

選点図



一等三角点の選点は2種類あって、本点と補点の選定です。本点は通常、基線網の増大点を基としていて、等辺三角形を選びつつ順次一方に拡張して、他の基線網から出発した増大点に連結します。補点は本点との間に選定します。

この常羽三角網は、本点と補点を同時期に混在して選点を実施しています。選点地を選ぶにあたって、大日本全図や20万分1輯製図上で計画した候補地に実際に選点出来たものと思えます。